



No.3 Mar. 2023

SVI NEWS



SVI公式HPは[こちら](#) **Science Village in ITOSHIMA**

糸島市の九州大学周辺で研究開発、産業、居住などの機能を小規模に分散して開発し、新たな「科学の村」を創る「糸島サイエンス・ヴィレッジ (SVI)」構想。

この取り組みを幅広く周知するとともに、多くの仲間が集い、つながり、創り出すSVIを実現するため情報便「SVInews」をお届けします。

◆特集：最新のデジタル技術を駆使して、糸島から拓く新しい世界

SVINEWSの9月号で紹介した「[糸島メタバースプロジェクト](#)」。インターネット黎明期を支えた技術者集団が、昨年7月に来訪。糸島の環境や九州大学に魅力を感じたメンバーは、その後も度重なる協議や合宿を実施。その結果、「メタバース」という技術を軸に、糸島を舞台に新たな会社を設立し、プロジェクトをスタートさせました。

その名も「株式会社メタコード」

～みんなが主役、みんなで創る「"公共的"メタバース」～

代表 平野友康氏 竹中直純氏 メッセージ

近年「魔法のような未来社会の到来」を予感させるものとして、ゲームに代表される仮想空間での交流が当たり前になってきました。ネットを前提とした活動空間にはメタバースという名称が当てられ、普及の兆しが誰の目にも見えてきています。しかし、産業や公共インフラとして実装するにはまだまだ技術的ハードルは高く、「"公共的"メタバース開発」についての明確なルールもありません。社会に組み込むには少々時期尚早なのです。

今回設立した株式会社メタコードでは、糸島サイエンス・ヴィレッジの構想の中でそのルール創りからチャレンジします。既に設置しているローカル5Gの「高速通信・同時多接続・低遅延」という特長を活かしながら、まずは糸島という単位で、デジタル・センサー技術を活用した市民のための仕組みづくりを検討・実証します。

世界規模でのルールづくりにはまだ時間がかかりますが、糸島というエリアであれば倫理観を持ってルールをつくり、市民や大学の皆様と一緒に考え、手を動かし、改善を重ねることで、メタバースを構成するそれぞれの要素技術が「まだ誰も良くわかってない」状態から「自分たちの社会を良くする仕組みの一つ」として身近なものへと変化させられると考えています。

みんなで創る、集いの場 糸島オープンイノベーションヴィレッジ (検討中！)



糸島市内でワークショップを開催。身の回りで困っていることに対し「こうなるといいな」「じゃあこうできるんじゃない?」「こうしてみよう」と、みんなで意見とアイデアを出し合って、解決方法を探っていくプロジェクトを実施していきます。



拠点となる糸島市内の一軒家



月形糸島市長との対談も実施

対談の様子は、[広報いとしま](#)1月号で特集しています。是非ご覧ください！

